

「診療報酬改定案」 ケアマネと連携する医師に「支援料」創設

中央社会保険医療協議会(中医協)は、2014年度の診療報酬改定案を2月中旬に厚生労働大臣に答申。医療職、なかでも介護保険利用者の主治医意見書を書く立場にある医師は、地域ケア会議やサービス担当者会議への出席を要請しても「同意を得られない」「参加してくれない」などケアマネジャーの悩みの種だった。しかし、2025年までに地域包括ケアシステムが円滑に機能するためには、医療と介護が一体となって、高齢者を支えなければならない。そうしたことから、今回の改定案には、在宅医療の推進が数多く盛り込まれる。たとえば、サ高住や有料老人ホームの入居者に対する訪問診療料を引き下げるほか、地域ケア会議に出席したり主治医意見書を書く医師を評価する診療料の創設する、など。ほかにも、一定以上の常勤看護師、24時間対応、居宅介護支援事業所併設などの要件を満たす「機能強化型訪問看護ステーション」の創設、在宅患者の受け入れや在宅復帰支援の業績がある病棟を評価する「地域包括ケア病棟入院料」の創設、維持期のリハビリをケアマネジャーとの連携で介護保険に移行した場合の支援料の創設などが盛り込まれている。

<生活保護> 総受給世帯の約半数が高齢者——厚労省調査

厚生労働省は1月、生活保護を受けている世帯の需給状況を調査する「被保護者調査」の平成25年度10月分の概数を発表。今回の結果によると、平成25年10月時点での非保護世帯数は159万4,729世帯、実人員数は216万43,384人、ともに前年比・前月比を上回る。世帯類型別では、高齢者世帯が71万9,398世帯、前年比4万1,223世帯増、前月比2,399世帯増と、毎月その数を増やし、全保護世帯数の45%。

一方、扶助の種類別人員では、生活扶助が194万7,091人、住宅扶助183万8,739人、教育扶助15万3,820人、介護扶助29万1,869人、医療扶助175万1,281人と、生活、住宅扶助に次いで、医療扶助が大きな割合を占めている。近年は、不況による雇い止めなどによる若年層の生活保護が社会問題となっているが、やはり全体の半数近くは高齢者層が占めている。高齢者世帯の受給が多い理由としては、年金を受給できない世帯や、国民年金だけでは経済的に苦しい世帯に加え、医療費や介護費が支払えない世帯が年々増加していることがあげられる。しかし、生活保護受給者は医療費がかからないため、無駄に投薬処方を受けていたり、精神疾患の薬を不法に横流しするなどの違法行為が摘発、保護費をギャンブルに投じてしまい、受給日には闇金が押し寄せるなどの悪しき連鎖も取りざたされている。

「老後の医療費」8割強が「不安を感じる」——民間調査

メディケア生命保険株式会社は、「病院選び・医者選びに関する調査」を携帯電話によるインターネットリサーチにより実施、1年以内に通院した経験のある20～59歳の男女1,000名の有効サンプルを集計。

調査内容は、「病院選び・医者選びに関する意識」「病院選び・医者選びのポイントとは?」「病院で感じる感謝と不快」「病院の待ち時間対策のサービスとして魅力を感じるものは?」「かかりつけの病院・医者」「医療環境や医療費に関する不安感」など、興味深い項目だが、今回は、高齢になるほどに気になる「医療環境や医療費に関する不安感」についての調査結果を紹介。

地域医療や医療連携の重要性が声高に語られる中、医療格差や老後の医療費について、在宅のご利用者とその家族が不安に感じていることは、ケアマネジャーなら、常日頃から肌で感じているかもしれない。所得格差による「受けられる医療の質」。医療もサービス業と位置付けられる昨今、大規模病院では、「患者さま」を受け入れるための環境づくりに余念がない。ホテルのような個室、シェフが調理する選べる食事など、いい気持ちにさせることで、保険外でかかる費用は天井知らず。また治療に関しても、難病や最新の技術などは、保険外診療となる場合も多い。

こうした中、「所得格差が生む医療格差に不安を感じる」と回答した人は6割半(65.4%)、「地域の医者不足に不安を感じる」と回答した人は5割半(53.3%)にもものぼる。所得格差による医療格差や地域の医者不足といった医療環境の問題には、半数以上が不安を感じていることがわかる。

「老後にかかる医療費に不安を感じる」と答えた人は8割強(82.2%)にも達し、中でも、先端医療などで高額な治療費がかかることが知られているがん治療に関しては、身近にがんの経験者がいる方(570名)の場合で7割強(71.3%)が「がん治療に対する備えに不安を感じる」と回答。がんはいまや死因のトップであり、国民の3人に1人はがんで亡くなっている。延命率も上がってはいるが、果てしない抗がん剤治療など、患者に苦痛と経済的負担をも強いるものでもある。今回の調査からは、老後・がん・医療費は、三位一体となって、人生の末路に暗い影を落とし、将来の医療費に対する不安感が浮き彫りとなる結果に。

訪問リハビリマッサージ☆ 施術時間延長! 30分~40分へ!

・当社は関係法規・指導に基づいた訪問・施術を行っております。施術実績も平成12年より 11年間で延べ3150人のご利用者様にリハビリマッサージを提供させて頂いております。総施術回数は48万回となっております。

* 当社ホームページ(<http://sunmedical.biz/>)のブログにて「スタッフの声」が見れます!

<速乾・消臭効果も>尿もれケア下着「リクープ かるる」をリニューアル発売

——ピジョン

ピジョン株式会社は、尿もれ用吸水機能付き下着「リクープ かるる」を2月下旬よりリニューアル発売する。本シリーズは尿の吸収量別に15ml、30ml、60ml用の3種類があり、男女別にそれぞれS～M、L、LLの3サイズがある。

■商品特長

- 1) 従来品の吸水部分のさらさら感と高い吸収性能はそのままに、吸水部分の素材をさらに薄く柔らかくし軽やかな履き心地を実現した。
- 2) 下着の表面全体には撥水性のある特殊素材を使用しており、万が一吸水部分からモレてしまった時にも、ズボンやスカートなど表にしみ出しにくくなっている。
- 3) 抗菌防臭加工(本体全体)とアンモニア消臭効果(吸水部分)で「臭い」の心配をしっかりサポート。
- 4) 新採用の「速乾生地」により洗濯時にも下着が早く乾くので、お手入れも簡単。



リクープ かるる

<高齢者向けうどん>冷凍具付き個食タイプを施設向けに発売

冷凍食品の製造・販売を手がける株式会社キンレイは、2月より、高齢者施設向けの冷凍具付うどん「シンプルクックうどんセットつゆ付き」を新発売した。食品卸を通じ、全国の高齢者施設などを中心に販売する予定だ。

高齢者はそばやうどんなど、麺メニューを好む傾向がみられるが、麺の取り分けなど調理に手間がかかることから、高齢者施設をはじめ大量調理施設では提供しにくいという声があった。こうした要望に対応するため、同社は個食タイプかつ、様々な調理器具で加熱調理可能な有孔フィルムで包装した冷凍具付うどんを開発。今後、有孔フィルム包装の技術は、他の麺類（ラーメン、そば、パスタなど）にも展開を予定している。

【商品特長】

- 麺の調理を簡単に！ 実用新案出願中の全面有孔フィルム包装
包装のフィルム全面に多数あいた孔を通して、湯や水、蒸気がフィルム内に浸透するため、開封せずに個包装のまま調理することができる。複数人分のうどんの調理を加熱から湯切り盛り付けまで1人前の量のまま同時に行うことができ、取り分けの作業をはじめ、麺の調理が簡単に。また、ボイル調理・スチームコンベクションオープン調理・電子レンジ調理に対応しており、提供人数や献立、設備状況に合わせて柔軟に対応することができる。
- 具と麺を同時に調理！ 具付麺だから具材調理の手間を軽減
下ゆでの必要なほうれん草、切り分けが必要なかまぼこといった基本の具が一体になった具付麺。具と麺を同時に加熱調理できるため、具材調理の手間を省くことができる。
- 高齢者が食べやすい、独自の商品設計
高齢者の一食分を想定し、麺量は通常よりも少なめの150g。また、高齢者の食べやすさを考慮し、麺の長さは通常の7割程度の長さ、麺の太さも細めに設計。

<商品画像>



<内容イメージ>



シンプルクック うどんセット つゆ付き

☆訪問マッサージの効果？について

肩背部マッサージ編

- * 肩が張ると、背中から頸部にかけて張ってきます
- * 頸部は筋肉が細いので強く押しすぎないことが大切です
- * 下肢が悪い方は肩に力が入ります



☆体験マッサージ券☆

サン介護マッサージでは、ケアマネジャー様、介護スタッフ様等の介護関係に携わる皆様に向けての体験マッサージ(30分)の実施も行なっております。

御希望の方はチケットを切り取ったうえで下記連絡先までご連絡をお願いします。

また、事業所向けの研修等も開催させて頂いておりますので、お気軽に相談下さい。

TEL:0120-20-3600(体験係り迄)



株式会社サンメディカル
SUNMEDICAL GROUP

健康保険による訪問リハビリマッサージ

サン介護マッサージ
お試しの体験マッサージOK

お問合せ TEL:0120-20-3600